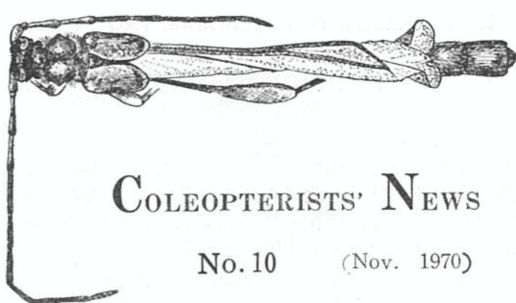


甲虫 ニュース



COLEOPTERISTS' NEWS

No. 10 (Nov. 1970)

日本産タマムシ科解説 (8)

黒 沢 良 彦

Ⅷ. Subfamily Chrysobothrinae ムツボシタマムシ亜科

ほとんど全世界に分布し、次の2族に分けられる。

- 1. — 附節第3節は両側に各1本の長棘を装う…… A. Actenodini
- 附節第3節には長棘がない…… B. Chrysobothrini

A. Tribe Actenodini カドアカタマムシ族
新旧両大陸の熱帯地方に6属があるが、東洋区には次の1属だけが広く分布する。

24. Genus *Belionota* Eschscholtz, 1829 カドアカタマムシ属

東洋熱帯地方とアフリカ、マダガスカルなどに約30種を産するが、その分布の主力は東洋熱帯でもインドシナ半島からスダンランドに至る地域にある。日本領内には全く産しない。古い外国文献には東洋熱帯からマダガスカルにかけて広く分布する *B. prasina* (Thunberg, 1789) ツンベルグカドアカタマムシが産すると言う記録があるが、これは台湾産を誤ったものと思われる。台湾には本種の他に、より小型で雄の後脛節内方に長毛のある *B. fallaciosa* H. Deyrolle, 1874 デイロールカドアカタマムシを産する。

B. Tribe Chrysobothrini ムツボシタマムシ族

ほとんど全世界に分布するが、大部分の種類は次のムツボシタマムシ属に含まれ、他には南米と南アフリカにそれぞれ一つの特産属があるだけである。

25. Genus *Chrysobothris* Eschscholtz, 1829 ムツボシタマムシ属

全世界に広く分布し、約600種を含む大属である。翅鞘上にある6個の黄金色の陥凹紋が和名の由来であるが、アフリカやアメリカには陥凹紋が全く無い種類が少なくない。前脛節の内側に大きな歯状

突起があることが本属の特徴である。日本領土内には11種を産するが、どれもよく似た色彩斑紋をしている。

1. *C. chrysostigma* (Linné, 1758) カクムネムツボシタマムシ 分布：日本(北海道)、樺太、朝鮮(北部)、満洲、中国(北部)、蒙古、シベリア、ヨーロッパ。翅鞘の各4本の縦隆条が著しく強く、陥凹紋が大きい。日本では北海道に限って産し、エゾマツ、トドマツなど針葉樹の衰弱木の樹皮下に被害する。日本産は原亜種に較べ短太で暗紫色を帯び、亜種 *yezostigma* Y. Kurosawa, 1963 に属する。近隣地域では樺太に亜種 *samurai* Obenberger, 1935、シベリア東部、満洲、北朝鮮に亜種 *kerremansi* Abeille, 1894、華北に亜種 *pekinensis* Théry, 1940 を産するが、どれも原亜種によく似た色彩や形態をしていて、日本産のものほど異った亜種はない。

2. *C. tsushimae* Obenberger, 1936 ツシマムツボシタマムシ 分布：日本(本州、対馬)、朝鮮、満洲。1936年に対馬産の標本に基いて記載された種類で、久しく対馬に産する朝鮮系の種類と考えられていたが、別項で小阪敏和氏が報じられた通り、広島県冠山で採集された。対馬では5、6月に発生し、夏にはほとんど姿を消す。種々の伐木に来るが被害植物は確められていない。朝鮮、満洲産は亜種 *trassaerti* Théry, 1940 に属し、朝鮮では桜に加害すると言う。

3. *C. daisenensis* Y. Kurosawa, 1963 ダイセンムツボシタマムシ 分布：日本(中国地方)。鳥取県大山以外の産地は知られていない。体がやや扁平で、前胸背の中央に浅いが明瞭な縦溝がある。シベリア東部から北朝鮮にかけて産する *C. amurenensis* Pic, 1904 にもっとも近いが点刻が異なる。

4. *C. igai* Y. Kurosawa, 1948 イガムツボシタマムシ 分布：日本(本州、四国、九州)。四国剣山が原産地であるが、その後、九州祖母山で発見され、南アルプスからは顔面の横隆脈の弱い亜種 *kumagaii* Y. Kurosawa, 1963 が記載された。翅鞘の縦隆脈は完全であるが弱い。

5. *C. nikkoensis* Y. Kurosawa, 1963 ヤマムツボシタマムシ 分布：日本（本州中部）。前種によく似ているが、翅鞘の縦隆脈は基部で著しく弱まるかまたは全く消失し、後跗節第1節は前種より長く、次の3節の和より長い点で区別される。関東地方と中部地方の山地に産し、日光地方が原産地である。浅間山付近と北アルプスに産するものは大型で色彩が明るく、翅鞘の縦隆脈が弱く、亜種 *monticola* Y. Kurosawa, 1963 と云う。前種と本種との関係が如何なるものであるかは将来各地の標本を比較検討の要がある。

6. *C. karasawai* Y. Kurosawa, 1963 コモンムツボシタマムシ 分布：日本（本州）。群馬県烏洞で唐沢安美氏により採集された288以外の標本を知らない。前種に似ているが、翅鞘の第3陥凹紋が著しく小さく、頭楯の前縁の形が異なる。

7. *C. succedanea* E. Saunders, 1873 ムツボシタマムシ 分布：日本（北海道、本州、佐渡、伊豆諸島、四国、九州、対馬、屋久島）、中国、ヒマラヤ。翅鞘の点刻が著しく強く密である点で他の種類と異なる。第3陥凹紋が大きく、第2紋より大きい。稀に第2紋より第3紋の方が小さい個体がある。金緑色の強いもの、紫銅色のものなどかなりの色彩変異がある。幼虫はモミ、ヒマラヤンズダなどの針葉樹からサクラ、ウメ、ビワ、カシ類、ミカン類など広い範囲の樹木の衰弱木か枯死後間もない木の樹皮下を食する。成虫は5～8月に出現する。

8. *C. ohbayashii* Y. Kurosawa, 1948 オオムツボシタマムシ 分布：日本（本州、四国、九州）、東亜産ムツボシタマムシ属中の最大種で、体長19mmに達する。近畿地方以西の西日本に限って産し、最北東の産地は滋賀県と福井県敦賀地方である。幼虫はカシ類とクスギなどブナ科植物であるが、京都東山で赤松の樹皮下から翅鞘の長さ12mmに達するムツボシタマムシの死骸を拾ったと云う記録があり、その翅長から推定すると本種であると考えられるので、あるいはムツボシタマムシと同様に本種も針葉樹に加害することがあるのかも知れない。

9. *C. sp.* アマミムツボシタマムシ 分布：琉球（奄美大島）。奄美大島の特産種であるが、まだ命名されていない。近く記載するつもりである。一見内地のムツボシタマムシによく似ているが、短太で、前胸背が赤味がかかり、翅鞘の点刻が弱いなどの点ですぐ区別できる。次種と共に東洋熱帯系の種類で、日本本土に見られる他の種類のような支那大陸系の種類ではない。5～7月に発生し、それ程稀な種類ではない。

10. *C. saliaris* Y. Kurosawa, 1948 オキナワムツボシタマムシ 分布：琉球（沖縄、八重山）。森下和彦氏採集の沖縄本島産の1♀に基いて記載されたものであるが、近年、石垣島と西表島に稀でないことが判明した。前胸背が赤く、中央に鋸形の緑色紋があり、翅鞘の第3陥凹紋が著しく小さくなり、時にはほとんど消失する点で他種から区別される。

11. *C. sp.* オガサワラムツボシタマムシ 分布：小笠原諸島（父島、硫黄島）。小笠原諸島の特産種で、翅鞘の陥凹紋は黄金色で大きく、前胸背の周辺部と翅鞘肩部が紺青色で、この属の中では日本最美の種類である。近く記載する予定である。

確実に日本領土内に産する本属の種類は以上の11種であるが、日本から記載された本属の種類には、この他に、1929年に鹿野忠雄博士が「信濃」から記載した *C. shinanensis* Kano, 1929 シナノムツボシタマムシがある。この種類の原記載（*Lansania*, Vol. 1, No. 6, p. 94）は簡単に *C. succedanea* E. Saunders, 1873 ムツボシタマムシ以外の種類には全部当るような記載であるので、私が1948年に *C. nikkoensis* Y. Kurosawa, 1963 ヤマムツボシタマムシを本種と誤って再記載して以来久しく誤って同定されていた。しかし、1958年にその模式標本を検したところ、全く別種であったので、私が *sinanensis* Kano (= *shinanensis*) と誤って同定した種類に1963年に *nikkoensis* と云う新名を与えた。真の *shinanensis* は一見細型で、点刻が弱く、顔面に渦状の皺があるなど日本産のどの種類とも異った特徴を持っている。模式標本と思われる標本には鹿野博士の筆跡で、"*Chrysobothris shinanoensis* Kano, sp. nov." と記された大きなラベルがついているだけで、これが「信濃」産であることを示すラベルは全くつけられてなかった。この状況から、この標本は台湾農事試験場に所蔵されていた標本が、ある事情により、他の多くのカミキリ類などの標本と共に、鹿野博士の所蔵標本中にまぎれこんだもので、日本以外の産地のものと私は推定したい。日本近隣の本属の種類の中では、本標本は、中国の上海から記載された *C. pieli* Théry, 1940の記載によく一致するが、これに当る大陸産の標本を検してないので、断定することはできない。なお、標本に付してあるラベルには *shinanoensis* になっているが、原記載には *shinanensis* となっている。三輪、中条両博士の目録には *sinanensis* と誤記されているので、以後 *sinanensis* にされ、私もそのように誤ったが、正しくは *shinanensis* である。

近隣地方に産する本属の種類には、台湾に *C. infranensis* Kerremans, 1912 タカサゴムツボシタマムシ、*C. shirakii* Miwa & Chûjô, 1935 シラキムツボシタマムシ、*C. kotoensis* Miwa & Chûjô, 1940 コウトウムツボシタマムシ、*C. sauteri* Kerremans, 1912 ルリムツボシタマムシがあり、朝鮮、満洲に *C. amurensis* Pic, 1904 アムールムツボシタマムシ、*C. laevicollis* Y. Kurosawa, 1948 ホソムツボシタマムシ、*C. manchurica* Arakawa, 1932 マンシュウムツボシタマムシなどがあり、中国にも A. Théry によれば18種を産するが、この中の2種は日本と共通である。

本属の種類は枯死して間もない樹木の樹皮下を加害し、材部に深い蛹室を作り、入口を硬く固めるので、

輸入材について世界中から種々の種類が輸入されている。その主なものを挙げると次の通りである。

C. delenifica H. Deyrolle, 1864 (香港), *C. cavifrons* H. Deyrolle, 1867 (ニューギニア, ソロモン諸島), *C. bimarginicollis* Schaeffer, 1905 (メキシコ), *C. nixa* Horn, 1886 (U. S. A.).

Ⅷ. Subfamily Stigmoderinae ムカシタマムシ亜科

8 属を含むが、大部分の種類はオーストラリアと

○新潟県のアキタクロナガオサムシ

—越後のオサムシ覚え書 (2)

新潟県の本種は、中村 (1925) によって柏崎からホソクロオサ (*Carabus porrecticollis*) としてはじめて報告されて以来最近まで記録がない。近年になって中根・馬場 (1957) が柏崎市宮川を報じ、次いで馬場 (1966~'67) は黒川村、出雲崎峠、長岡市の平野部、大湯温泉附近の山麓等を記録するとともに、本種は県南部に独占的に分布するとのべた。以上のうち、黒川村は県北部であるが、正確な産地が不明であるため未だに2頭目が採集できず、結局、県の中・北部における本種の分布は不明であった。

筆者は1966年以来、三条市外の月岡山、吉田山、大崎山で採集し、本年(1967)9月24日には新発田市上赤谷で朽木および土中から、越冬中の本種43頭をトウホククロナガオサ18頭と共に採集し、はじめて県の中・北部にも確実に産産することを知った。その後、東蒲原郡三川村綱木でも伊丹英雄君により数頭採集されており、分布は局地的であるらしいが、今後各地で発見されるものと思われる。

(新潟県新発田市 小池 寛)

「越後のオサムシ覚え書」は編集者の手違いにより(4)(5)が先になり(2)(3)が後になってしまいました。この点著者の小池寛氏に大変ご迷惑をおかけ致しました。謹しんでお詫びをいたします。(編集者)

○北海道大千軒岳のオサムシ

北海道渡島の大千軒岳はオサムシの記録が比較的少ない山であるので1970年7月9~13日に筆者等が採集したオサムシの全種類を記録する。

1. クロカタビロオサムシ *Calosoma maximowiczii* Morawitz, 1♀
2. クロオサムシ *Apotomopterus albrechti albrechti* Morawitz, 1♂ 1♀
3. エゾアカガネオサムシ *Carabus granulatus yezoensis* Bates, 2♂♂ 23♀♀
4. ヒメクロオサムシ *Carabus opaculus opaculus* Putzeys, 1♂ 1♀
5. エゾクロナガオサムシ *Carabus arboreus arboreus* Lewis, 8♂♂ 7♀♀
6. ムナカタキンオサムシ *Procrustes aino munakataorum* Ishikawa, 6♂♂ 11♀♀
7. ムナカタオオルリオサムシ *Acoptolabrus munakatai* Ishikawa, 39♂♂ 21♀♀
8. エゾマイマイカブリ *Damaster blaptoides rugipennis* Motschulsky, 10♂♂ 6♀♀

南アメリカに限って産し、わずかに例外的な種類が少数だけ中米やニューギニアに見出される。しかし、ニュージーランドには1種も産しない。このうち *Stigmodera* Eschscholtz, 1829 ムカシタマムシ属はオーストラリアとタスマニアに400余種あり、*Conognatha* Eschscholtz, 1829 は主として南米の低地と中米に100余種、*Dactylozodes* Chevrolat, 1833 は主としてアンデス山地の中南部とアルゼンチンに約50種を産するが、他の属は種類がごく少ない。

(国立科学博物館)

9. セダカオサムシ *Cychnus morawitzi* Géhin, 2♂♂ 2♀♀

(横浜市 奥村 尚・蕭 嘉広)

○奄美大島で採集したカミキリムシ類から

筆者は本年4月及び9月の二回に亘り、奄美大島内の各地で主としてカミキリムシ類の採集を行ったが、その中から本島未記録と思われるもの及び従来採集例の比較的少ない種について記録しておく。

1. *Necydalis moriyai* Kusama 5♂♂ 2♀♀, 八津野, 24~27. vi. 1970. 本種は最近草間慶一氏によって記載されたが、筆者も模式産地の八津野で、上昇気流が激しい斜面の潤葉樹の花(種名不明)から採集した。

2. *Comusia testacea* (Gressitt) オガサワラチャイロカミキリ 1♀, 八津野, 24. vi. 1970. 伐採されたシイの根元から出芽した不定芽をピーティングして採集した。

3. *Leptepania ryukyuanus* Hayashi リュウキュウチビコバナカミキリ 4♂♂, 2♀♀, 八津野, 22~27. vi. 1970. ピーティングにて採集した。

4. *Molorchus cobaltinus* Hayashi ルリヒゲナガコバナカミキリ 1♂, 大和村, 13. vi. 1970. ピーティングにて採集した。

5. *Acrocyrtidus elegantulus longicornis* Hayashi ヨツオビハレギカミキリ 9♂♂, 2♀♀, 八津野, 21~27. vi. 1970. いずれも上昇気流で吹き上げられたものを採集した。

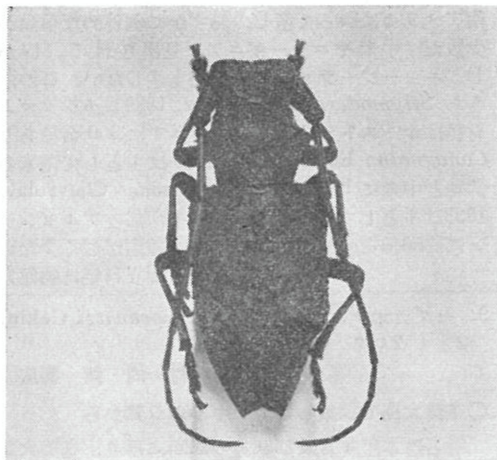
6. *Xylotrechus chinensis* (Chevrolat) トラフカミキリ 1♀, 西仲間, 23. vi. 1970. 従来本島からは未記録であったが、上記場所で飛翔中のものを採集した。(東京農業大学 小林敏男)

○淡路島でヒメコブヤハズカミキリを採集

淡路島において、同島未記録と思われるヒメコブヤハズカミキリとヒメオサムシを、トラップにより採集したので報告する。

1. ヒメコブヤハズカミキリ *Parechthistatus gibber* Bates, 1♀, 先山, 3. v. 1969. (写真参照)
2. ヒメオサムシ *Apotomopterus japonicus chugokuensis* Nakane?, 2♂♂ 3♀♀, 先山, 3. V. 1969.

なおこのほか、ヤコンオサムシ、マイマイカブリ



数頭を採集した。(大阪府豊中市 水沼哲郎)

○奥多摩でエゾトラカミキリを採集

エゾトラカミキリ *Oligonoplus rosti* (Pic) は比較的個体数が少なく、東京近郊からの採集記録は知られていない様である。筆者は今年下記の如く採集したので報告しておく。

1 ♀, 奥多摩小川谷, 16. v. 1970.

クマシデのピーティングによって採集した。

(東京農業大学 小林敏男)

○アマミヨツバコガネ屋久島に産す

本邦産ヨツバコガネは2亜種に分たれ、翅鞘に赤斑のあらわれるアマミヨツバコガネ, *Ohkubous ferriei ferriei* Nonfried は従来奄美大島, トカラ諸島の中之島から知られ, 九州・四国・本州にかけての地域では全体黒色のヤマトヨツバコガネ *O. ferriei quadridentatus* Sawada が分布していた。

筆者は今夏, 下記の如く屋久島からアマミヨツバコガネを採集したので報告する。

1 ♀, 宮之浦林道(起点から8km付近) 25. vii 1970, 飛翔中のものを採集。

(東京農業大学 岡島秀治)

○奄美大島の食糞コガネムシ追記

奄美大島の食糞コガネムシ類については, 後藤光男氏が詳細に纏めておられる(昆虫学評論, 第22巻第1号49~54頁, 1969)。私は1963年7月に奄美大島と徳之島で採集をしたが, その時に得た知見の中で, 若干後藤氏の記事に追記する必要があるものを認めたので, 古い記録ではあるが, 以下に記す。

1. ダルマコガネ *Paraphytus dentifrons* Lewis, 2頭, 湯湾岳, 17. vii, 1963. 共に朽木より採集。

2. ネアカエンマコガネ *Onthophagus shirakii* Nakane, 2♂♂, 湯湾岳頂上附近, 17 vii, 1963; 1♂, 徳之島三京, 25. vii. 1963. 湯湾岳産のうち1頭は枯木に生じた軟菌(種名不明)に, ヒメグリオオキノコムシ *Megalodacne lewisi* Nakane 4頭と共に来ていたもの, 他の1頭は倒木の下地面を歩

いていたもの。徳之島のものはうす暗い林の中を飛んでいたものである。徳之島は新記録であるらしい。

3. ヒメキイロマグソコガネ *Aphodius* (*Liothorax*) *inouei* Nomura, 4頭, 徳之島平土野, 23. vii. 1963. 共に路上にあるカラカラに乾いた牛糞に来ていたもの。沖縄本島にもいるから, 徳之島にいても不思議はない。本種は内地でも盛夏に現れる。

(東京都世田谷区, 黒沢良彦)

○マキバマグソコガネ阿蘇山に産す

マキバマグソコガネ *Aphodius* (*Agrilinus*) *pratensis* Nomura et Nakane, 1951 は本州(関東中部, 近畿)及び対馬に産し, 九州本島よりは未記録であったが1969年に阿蘇山で採集されたので報告する。

1頭. 6. xi. 1969. 阿蘇山, 草千里(熊本県阿蘇郡白水村)中島秀利採集。草原地の馬糞より得られたもの。標本は現在筆者が保管している。

同定をお願いした三宅義一氏ならびに貴重な標本を提供頂いた中島秀利君(三池工業高校3年)には末尾ながら深く感謝の意を表する。

(大牟田市, 佐田禎之助)

○富士山でヘリグロホソハナカミキリを採集

1970年6月28日, 富士山, 富士宮口1合目付近でヘリグロホソハナカミキリ *Ohbayashia nigromarginata* Hayashi 1♀を採集した。初記録と思われるので報告する。なお従来知られていた最も近い産地は天城山である。(東京都港区 小宮次郎)

○南アルプスでホソヒメクロオサムシを採集

楡形山で採集記録を1例数えるだけで, 生息することを疑問視されていた南アルプスのホソヒメクロオサムシ *Carabus harmandi* Lapouge を南アルプス広河原で採集したので報告する。

2♀♀, 山梨県中巨摩郡芦安村広河原, 21. viii. 1970; 1♀, 同上, 5. ix. 1970 蕭 嘉広採集。

(横浜市中区 蕭 嘉広)

甲虫談話会

会費(1カ年)500円, 第12号は12月末発行予定, 投稿メ切は11月30日。

発行人 黒沢良彦

発行所 甲虫談話会 東京都台東区上野公園
国立科学博物館動物研究部内
電(822)0111, 振替東京60,664

マレー半島産甲虫類(コガネムシ, クワガタムシ, カミキリムシ, ゾウムシ, 其他)が多数入荷しています。御希望の方は返信料御封入のうえ価格表を御請求下さい。

東京都練馬区石神井局私書箱2号
大蔵生物研究所